

評価項目		評価の着眼点		ウエイト	配点	評価点
法人の概要・事業実績/業務実施方針	1 事業目的・方針	1	本市の動向を踏まえ、生活困窮世帯における子どもの学力や高校中退に関する課題を理解している。	2	4	8
		2	上記の課題に応じた事業方針や事業運営の考え方になっている。	1	4	4
		3	本事業運営に十分な実績と信頼が持てる、安定した運営状況である。	1	4	4
業務実施内容と実施手法	2 中学生向けの支援	1	利用者の学力・特性を評価（アセスメント）する手法がある。	2	4	8
		2	利用者の学力・特性に合わせた学習支援計画を立て、実行する手法がある。	3	4	12
		3	発達障害や学習障害への理解や支援方法がある。	2	4	8
		4	学力向上のための教材を提供できる。	1	4	4
		5	「利用者の学力や意向」と適切な進学先をマッチングできる手法がある。	2	4	8
3 高校生向けの支援	1	高校生の中退防止に効果のある支援プログラムがある。	2	4	8	
	2	高校生世代（高校に在籍しているか否かに関わらず、おおむね15～18歳）が、将来の選択肢を広げられるような講座を開催できるプログラムがある。	1	4	4	
業務実施体制	4 職員配置等	1	運営現場の課題を総括し、組織的に対応できる人材（統括スタッフ）を確保できる。	2	4	8
		2	運営現場をマネジメントできる人材（コーディネーター）を確保できる。	2	4	8
		3	中学生2名に対してスタッフを1名、高校生5名に対してスタッフ1名を配置できるマネジメントの仕組みがある。	3	4	12
		4	区役所へ提出する報告書等を、遅滞なく正確に作成する事務補助体制がある。	2	4	8
		5	その他、仕様書にある職員体制を確保できる。	2	4	8
業務管理運営体制	5 連絡方法	1	保護者・利用者への安全な連絡方法（一斉連絡・個別連絡）が確立している。	1	4	4
		6 安全管理	1	災害等が発災した時の安全管理をする仕組みがある。	1	4
	2	事故防止に関する仕組みがある。	1	4	4	
	7	1	利用者の個人情報を保護するための仕組み・研修がある。	1	4	4
	8 研修	1	中学生に学習支援するスタッフ（支援スタッフ）への研修プログラムがある。	2	4	8
		2	高校生に相談支援するスタッフ（支援スタッフ）への研修プログラムがある。	2	4	8
3		利用者との適切な関係性（傾聴はするが、関係が近くなりすぎない、連絡先交換しない等）を保てる研修プログラムがある。	2	4	8	
9	1	事業内容と予算の編成が妥当である。	1	4	4	
ワーク・ライフ・バランスの取組、障がい者雇用及び健康経営に関する取り組み	10 ワーク・ライフ・バランスの取組	1	ワーク・ライフ・バランスの取組み（えるぼし、くるみん、ユースエール、よこはまグッドバランス賞の認定等）がある。 ※いずれか1つ以上を取得していれば1	2	1or0	2
		11 障がい者雇用及び健康経営	2	障害者雇用促進法に基づく法定雇用率2.3%を達成している。	2	1or0
	12 健康経営に関する取組	3	健康経営銘柄、健康経営有料法人（大規模法人・中規模法人）の取得、又は横浜健康経営認証のAAAクラスもしくはAAクラスの認証を受けている。	2	1or0	2
評価点の合計				45	95	162

(1) 各評価項目は1点～4点とする

4=特に優れている、3=優れている、2=やや不十分、1=不十分

評価点はウエイト×配点とする

(2) 項目10・11・12は該当があれば1、なければ0

(3) 評価の採点が同点の場合は、選考委員の投票で多数決により当該同点者の順位を決定する

票数が同数の場合には委員長の判断により決定する

(4) 総合点が60%に満たない場合は提案者を特定しない